

第109期
中間株主通信

2023.4.1 — 2023.9.30

INDEX

株主の皆様へ	1
決算ハイライト	3
トピックス	5
会社情報他	7

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。第109期上期(2023年4月1日から9月30日まで)の経営成績がまとまりましたので、ここにご報告申し上げます。今後も引き続きご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長

上島 宏之



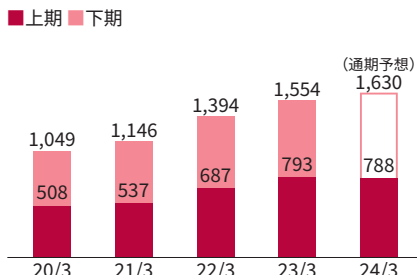
Q 上期の概況をお聞かせください。

A 一部需要の回復はあるものの、新工場稼働に伴う費用の先行などにより、減益となりました。

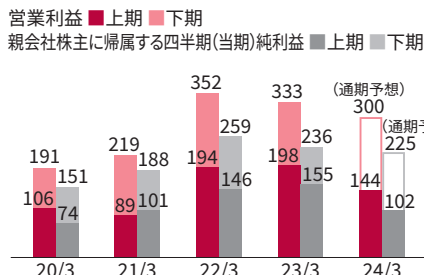
上期の世界経済は、米国では失業率は低位に推移し、物価上昇率も鈍化し、景気に底堅さが見られますが、継続する金融引締め政策の影響による景気減速が懸念される状況となっています。グレーターチャイナでは、ゼロコロナ政策の撤廃以降の経済活動や個人消費の回復が見られますが、長引く不動産不況や企業の設備投資の鈍化による景気の減速が懸念されています。日本経済は、原材料価格・エネルギー価格・販売価格の高騰が一服し、緩やかに景気が回復した一方で、中国経済停滞の長期化などによる海外需要の鈍化に伴う景気の下振れが懸念されています。

業績レビュー

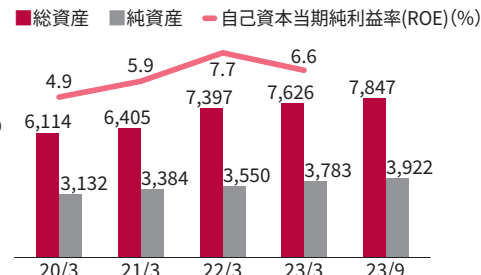
売上総利益 (億円)



営業利益・純利益 (億円)



総資産・純資産 (億円)



Q 通期の見通しはいかがですか？

A 下期の外部環境も厳しい状況が予想され、連結業績予想の見直しを実施しました。

半導体供給制約が緩和し自動車生産台数の増加を受けた自動車関連ビジネスや、外出機会の増加を背景とするライフ&ヘルスケア関連ビジネス等、外部環境が改善したビジネスについては、業績は堅調に推移しております。また、半導体関連につきましては、業界全体の本格回復に遅れが生じているものの、取扱い商材の拡充や、ハイエンドサーバー用の半導体向けへの販売増加等により堅調に推移しております。

一方、樹脂販売においては世界的なインフレにより電子・電気関連製品の需要減少を受けて販売が当初想定を下回る水準となりました。また、生活関連セグメントにおいては、製造量の拡大、生産効率向上のための整備を進めてきた米国Prinovaグループのユタ新工場の本格稼働が計画より遅れたことに加えて、食品素材販売ビジネスの数量は増加しているものの製品単価の下落による収益性低下の影響等から当初想定を下回る利益水準となっております。主要な事業における外部環境は厳しい状態が続いており、下期から本格回復に向かうことを前提としていた中国でのミドル・ロー

エンドのスマートフォンについても買い替え需要の延期等もあり本格回復には至っていない状況です。

このような状況を踏まえ、通期業績予想を修正し、売上総利益は1,630億円(前回発表予想比△4.7%)、営業利益は、300億円(同△13.0%)、経常利益は、290億円(同△11.0%)、親会社株主に帰属する当期純利益は、225億円(同△6.3%)といたしました。

Q 中期経営計画 ACE 2.0(2021年度-2025年度)の進捗はいかがでしょうか。

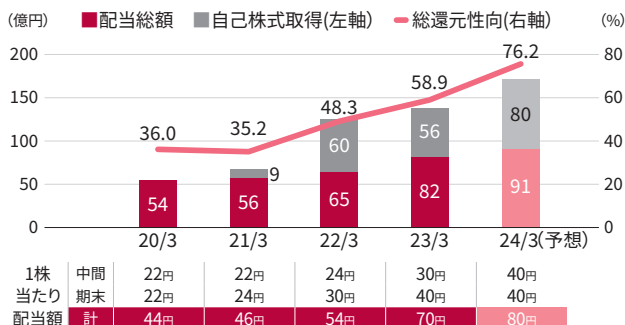
A さらなる企業価値向上に向けACE 2.0の成長戦略を明確化しました。

当期はACE 2.0の始動から3年目となり、折り返しの年となります。ACE 2.0の策定当初から、COVID-19の感染拡大や、デジタル化の波、環境価値が経済価値の前提となるトレードオンなど、猛スピードでニューノーマルが形成されています。このような外部環境の大きな変化を踏まえ、より高い収益性と外部環境の変化に対応する体制を構築すべく、ACE 2.0の基本方針のもと、成長戦略を明確化しました。

主な内容として、基盤である商社機能をさらに強化・拡大・効率化し、得た情報とキャッシュを高い成長性を見込むフード・半導体・ライフサイエンスに関連する製造開発機能へ集中的に投資します。加えて、(株)林原とナガセバイオイノベーションセンターを中核にバイオテクノロジーの研究開発を加速し、医療・化粧品・機能性食品・化学工業分野向けに自社製品の拡充を図り、バイオ関連事業を将来の収益源の1つとして育成していきます。

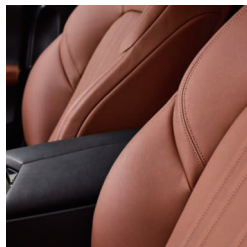
ACE 2.0の詳細については、当社ホームページに掲載の2024年3月期第2四半期決算説明会資料に記載しておりますので、是非ご一読ください。

株主還元状況



URL <https://www.nagase.co.jp/ir/library/results-briefing/>



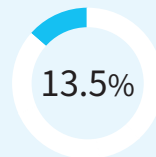


機能素材セグメント

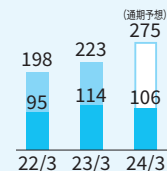
上期の状況

- 塗料原料の販売が減少
- 加工油剤・樹脂関連の原料販売が減少
- 半導体関連等の電子業界向けの原料販売が減少

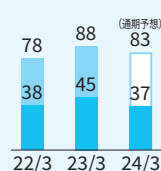
売上総利益構成比



売上総利益(億円)



営業利益(億円)

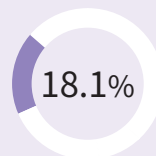


加工材料セグメント

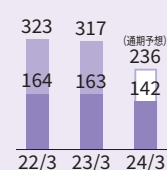
上期の状況

- OA・ゲーム機器業界等向けの樹脂販売は需要の減少および顧客の在庫調整の影響等により、減少
- 顔料・添加剤の販売は低調に推移
- 情報印刷関連材料は製造業の収益性が低下し、販売も減少

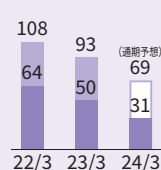
売上総利益構成比



売上総利益(億円)



営業利益(億円)

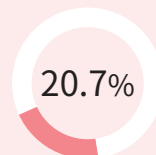


電子・エネルギーセグメント

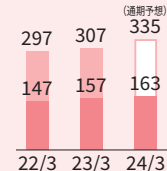
上期の状況

- 半導体市場の悪化はあるものの、商材拡充により半導体業界向け材料販売が増加
- 変性エポキシ樹脂関連は主にサーバー用の半導体向け、モバイル機器向けの需要増加により、販売が増加
- 電子デバイス向けフォトリソ材料の販売が増加

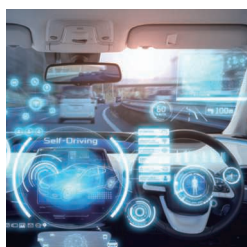
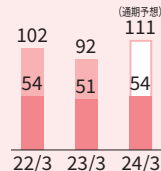
売上総利益構成比



売上総利益(億円)



営業利益(億円)

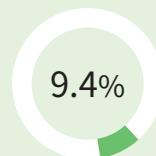


モビリティセグメント

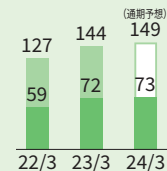
上期の状況

- 自動車生産台数の増加および既存顧客向けへのシェア拡大等により樹脂の販売が増加
- 内外装・電動化用途の機能素材・機能部品の販売が増加
- 営業利益は売上総利益が増加したものの一般管理費が増加したことにより、減益

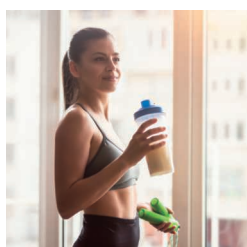
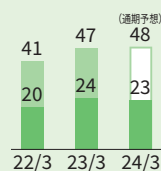
売上総利益構成比



売上総利益(億円)



営業利益(億円)

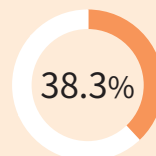


生活関連セグメント

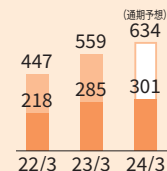
上期の状況

- Prinovaグループはユタ新工場の稼働に加え、為替が円安に推移したことにより全体として販売が増加
- 林原は主に化粧品素材の販売が増加
- 中間体・医薬品原料の販売が増加
- 営業利益は売上総利益が増加したものの、主にPrinovaグループの人件費等の一般管理費の増加、ユタ新工場の利益貢献の遅れ等の影響により、減益

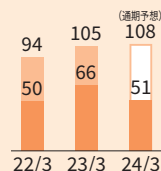
売上総利益構成比



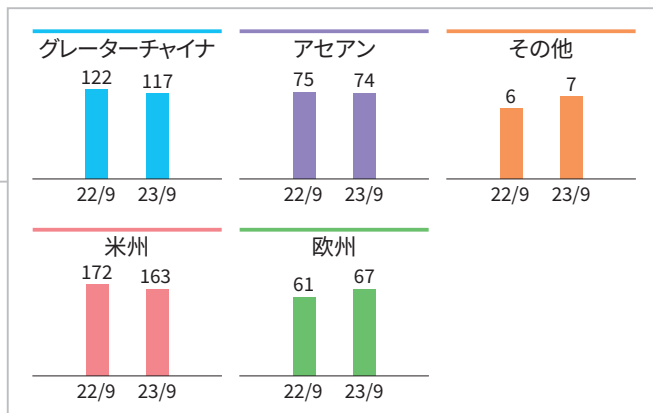
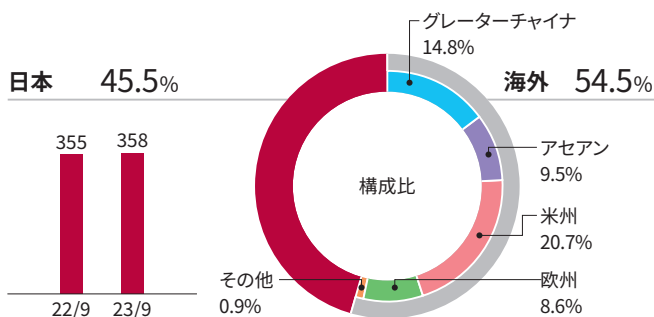
売上総利益(億円)



営業利益(億円)

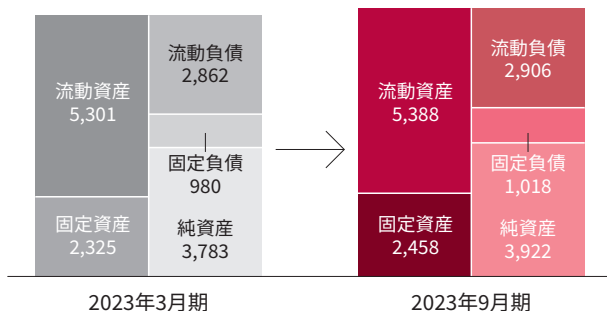


所在地別売上総利益構成比 (億円)

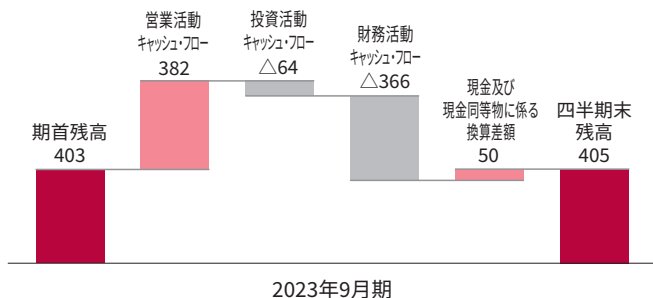


連結財務諸表サマリー (億円)

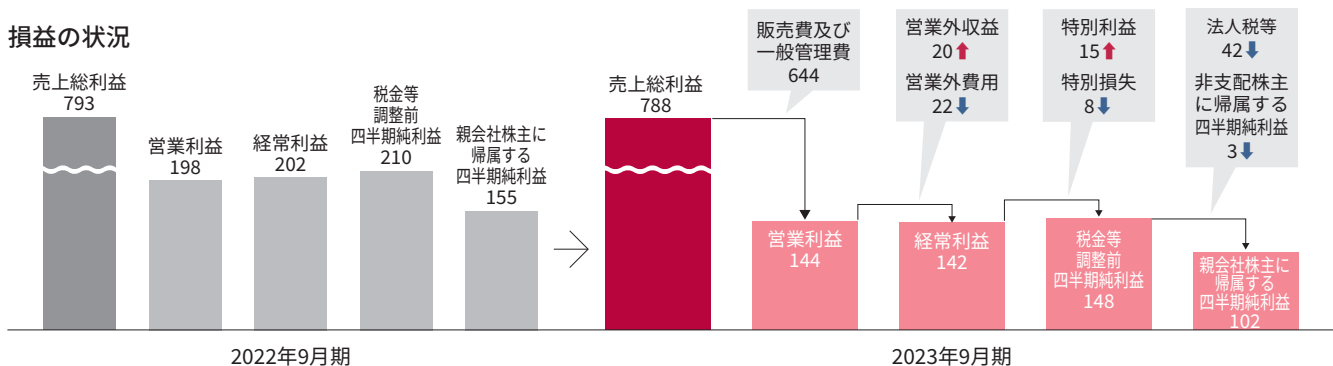
資産・負債・純資産の状況



キャッシュ・フローの状況



損益の状況



大日本印刷と共同でカーボンフットプリント算定のコンサルティングサービスを開始

当社は、大日本印刷株式会社(以下「DNP」と共同で、化粧品・医薬品に対して、原料やパッケージも含めたライフサイクル全体の温室効果ガス(以下「GHG」)排出量を可視化する、カーボンフットプリント(以下「CFP」)算定コンサルティングサービスの提供を2023年7月より開始しました。CFPIは、製品・サービスの原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクルを通して排出されるGHG排出量を表示する仕組みです。

本コンサルティングサービスでは、パッケージ製品の原材料調達から製造、廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体のGHG算定に関して長期にわたり取り組んでいるDNPと、化学系専門商社として培ってきたネットワークやノウハウをもとにサプライヤーや顧客などサプライチェーン全体のGHG排出量可視化・削減支援を進めている当社の強みを掛け合わせ、CFP算定に関する一気通貫したコンサルティング支援を行います。

化粧品・医薬品業界において協業の取り組みを進めていき、食品業界等、今後CFP算定のニーズが拡大する分野にもコンサルティング提案を加速させていくことで、カーボンニュートラル実現を目指していきます。

パッケージと化学品原料を対象に一気通貫のコンサルティング支援を実現



ナガセをサガセ。日本経済新聞にてシリーズ広告を掲載

2023年10月31日(火)の日本経済新聞朝刊に、社会課題をマテリアルで解決するNAGASEグループの取り組みを紹介する新しいシリーズ広告を掲載しました。

第1回は、オムツなどに使用される生分解性SAP(高吸水性ポリマー)を取り上げました。乳幼児用、大人用のオムツは膨大な量が生産されていますが、使用後ほとんどが焼却処分されており、CO₂の排出が課題となっています。NAGASEグループでは、でんぷんを原料に使用し、土壌や海水での分解を可能にする生分解性SAPを開発し、環境への負荷を削減する取り組みを行っています。動画でも当社の取り組みを紹介していますので、是非ご覧ください。



【ナガセをサガセ。】
おむつ問題を水に流そう 編
<https://youtu.be/0Bf5exLd1Sw>



株式会社林原の社名変更

当社の100%子会社であり、バイオテクノロジーや機能性色素の技術をベースに幅広い分野で事業を展開している株式会社林原(以下「林原」)は、2024年4月1日付で社名を「ナガセヴィータ株式会社」に変更します。また、パーパス(存在意義)も新たに定義し、「生命に寄り添い、人と地球の幸せを支える」に決定しました。「Viita」は、事業のテーマである「生命、暮らし」を表すラテン語「Vita」に、「i」を加えた造語です。並んだ2つの「i」には、「人と自然が共生する未来を、みなさまと共創したい」という想いを込めています。

林原が2012年にNAGASEグループに加わってから10年が過ぎ、2023年4月にはナガセケムテックスの生化学品事業との統合という大きな変化を経て、「ナガセヴィータ」はグループのバイオ関連事業の中核として、サステナブルな素材と価値の提供を牽引していきます。



第2回WPA[※]公認NAGASEカップ 陸上競技大会を国立競技場で開催



当社が特別協賛する「第2回WPA公認NAGASEカップ陸上競技大会」(以下、「NAGASEカップ」)が2023年9月2日、3日に国立競技場(東京都新宿区)にて開催されました。

NAGASEカップは一般社団法人日本パラ陸上競技連盟(以下、「JPA」)が主催する陸上競技大会であり、「日本陸連公認の部」と「パラ公認の部」からなる“誰もが参加できるインクルーシブな大会”をコンセプトに掲げる大会です。

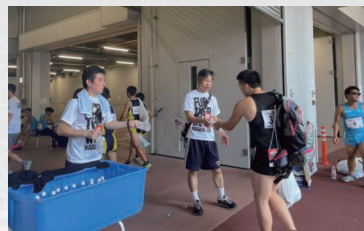
第2回となる今回は、国際的な大会に出場経験のあるアスリートから小学生まで、障がいの有無や年齢、国の垣根を超え、前回の約5倍となる1,424名のアスリートが出場しました。

パラ競技においては2日間を通じて1個の世界記録、5個のアジア記録、9個の日本記録が誕生したほか、今回初となる「小学生の部」では120名の小学生が出場。また、シンガポールやカンボジアなどの海外のアスリートや、聴覚障害を持つアスリートも出場するなど、インクルーシブな陸上競技大会となりました。

NAGASEカップでは、社員をはじめ一般・学生の方がボランティアスタッフとして参加。選手がより競技に集中できる大会となるよう受付サポート、水の配布、荷物の運搬といった活動を行いました。

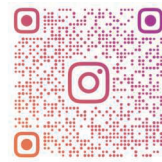
NAGASEグループは、2018年にブラインドランナーの和田伸也選手を社員に迎え、スポーツの力、アスリートの力が社会や社員に与える影響の大きさを感じてきました。NAGASEカップは、トップアスリートが競い合う大会として、また、未来のアスリートの育成・活躍の場を提供したいという思いから開催に至りました。今後も第5回、第10回と、長期的な協賛を通じて、選手や観客、ボランティアなど、参加者の皆様に新しい体験や価値観との出会いの場を提供できるよう、競技や大会プログラムの充実を目指してまいります。

※WPA: World Para Athletics(世界パラ陸上競技連盟)



NAGASEカップ
公式Instagram

https://www.instagram.com/nagasecup_since2022/



NAGASECUP_SINCE2022

会社概要

商号	長瀬産業株式会社 NAGASE & CO., LTD.
創業	1832年(天保3年)6月18日
設立	1917年(大正6年)12月9日
資本金	9,699百万円
主要な事業所	大阪本社、東京本社、名古屋支店、 ナガセバイオイノベーションセンター(兵庫県神戸市)、 ナガセアプリケーションワークショップ(兵庫県尼崎市)

株式の状況

発行済株式の総数 117,908,285株

株主数 25,875名

大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	14,233	12.42
三井住友信託銀行株式会社	4,776	4.17
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	4,731	4.13
株式会社三井住友銀行	4,377	3.82
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	3,784	3.30
日本生命保険相互会社	3,589	3.13
長瀬令子	3,503	3.06
長瀬産業自社株投資会	3,499	3.05
株式会社長瀬舜造	2,688	2.34
株式会社三菱UFJ銀行	1,836	1.60

※ 持株比率は自己株式(3,277,699株)を控除して計算しております。

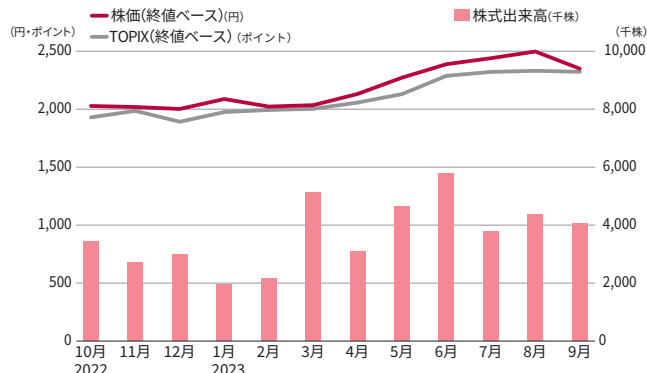
株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、右記の電話照会先にご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である右記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設いたしております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、右記の電話照会先をお願いいたします。

株価/出来高の推移 (2022年10月1日~2023年9月30日)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

株主名簿管理人事務取扱場所

(郵便物送付先)

(電話照会先)
(照会先URL)
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-782-031 (受付時間 平日 9:00~17:00)
<https://www.smbt.jp/personal/procedure/agency/>

公告方法 電子公告の方法により、当社ウェブサイトにて行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

単元株式数 100株

株主に対する特典 毎年3月31日現在の株主名簿に記録された1単元以上を半年間以上保有の株主を対象に、保有期間に応じて、カタログギフトを贈呈。

上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場



本冊子掲載情報の詳細については当社ウェブサイトをご参照ください

<https://www.nagase.co.jp/>

長瀬産業

検索

